

【茂助の努力】

明治時代と共に教育の内容も変わっていきました。茂助は、会津藩の頃は武士としての学習や教養は積んでいましたが、明治の時代が進むといろいろな学習が改めて必要とされ、そのために茂助はずい分努力したようです。その証拠が残っています。

それは資格試験の際の茂助の成績表です。それによると、当時の教科は**修身・算術・読書・博物・物理**などです。当時の茂助は40歳代の後半で轟木村に居住していましたから、勉学にはかなり苦勞して励んだと思われます。

資格を改めて取ったことにより給料も上がりました。茂助の履歴書によれば、明治10年には月給5円、それが明治15年には月給10円と上がっております。

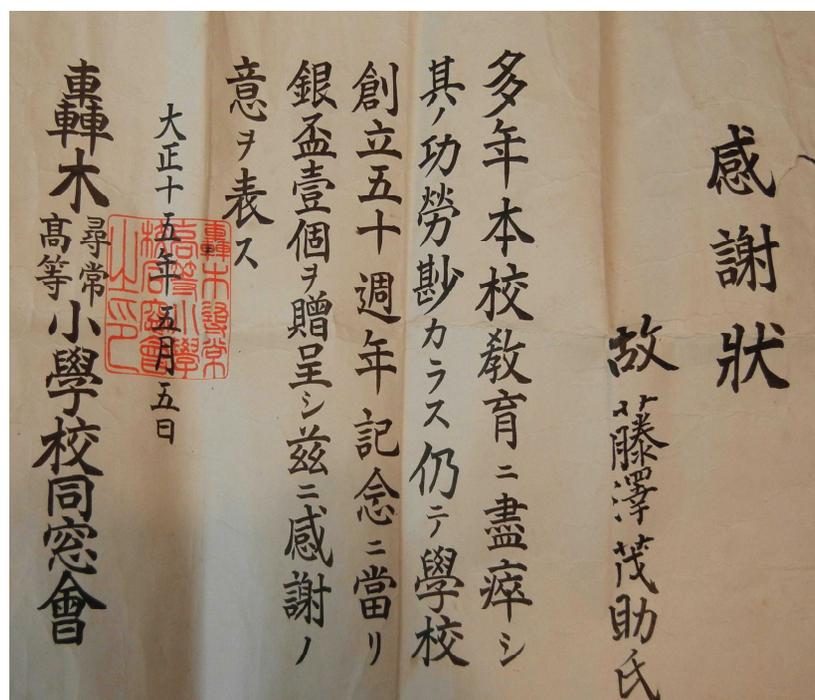
【その後の茂助】

茂助の教育への熱心さがしだいにみられます。そのことが住民の茂助への支持となってあらわれ、生徒の数がしだいに増えていきます。その結果、教場が足りなくなったので、新築します。(明治14年) 二階建てとなり、上は女生徒教室で教員もふたりになりました。妻:**みね**の働きも大きかったようです。

当時の三戸郡の記録によれば、郡内の多くの小学校の中で、優れた学校として轟木小学校の名があげられています。その理由は、地域の生徒の割合が他よりも多かったというものです。そのことは、茂助の努力とともに、地域の人々の茂助への共感・協力の結果といえそうです。茂助は最後まで地域の教員として努め、明治24年に60歳で死去します。茂助の墓ははじめ轟木の地にありましたが、現在は百石(おいらせ町)の法運寺に、卒業生によって建立された顕彰碑とともに同地にあります。(了)



〈藤澤家の墓と茂助顕彰碑〉



〈同窓会より:藤澤茂助への感謝状〉

- 【参考】
- ・「はちのへ町内風土記(デーリー東北)
 - ・「とどろき百年」(八戸市立轟木小学校)
 - ・「流れる五戸川」(続20号):三浦榮一
 - ・「続はちのへ今昔」(2005年8月号ほか)

※写真:木村隆一

【お話と資料】 ★ 藤澤茂登氏 : (おいらせ町・藤澤製菓)

